



# 子ども大学学生新聞

第18号  
子ども大学  
かわごえ新聞部

## 未来の自分をどうつくるか

### 小島先生「夢を持って今やるべきことをやる」

一〇月一八日、東洋大学川越キャンパス七二教室で、東洋大学理工学部生体医学工学科の小島貴子准教授による「未来の自分に会いに行こう」という授業がありました。出席者は学生一〇一人(四年生三人、五年生三人、六年生三人)、保護者七人、きょうだい五人でした。

最初に先生は、学生とは「学んで生きる人」とおっしゃいました。中学生で高校に入る人は九九・九%、高校から大学に進む人は五〇%をこえているそうです。そこで先生はみんなに質問しました。日本に大学はいくつあると思いますか？



正解は七八〇校です。

先生はまた質問しました。生きている間に一番多くやっていることは？寝ていることだそうです。先生は、生きていくために必要なことは、考える習慣をつけることとおっしゃいました。

本田圭介、イチロー、錦織圭は、みんな子どものとき、「自分はプロになる」という夢を持っていたから上手くなれたそうです。先生が前に立教大学の先生をしていたとき、ある学生が「未来の自分に会うためには、どうすればいいのですか」と質問したそうです。先生は、「①いろんな人を見て、かっこいいと思う、②自分が思う自分を考える、③人に自分の夢を話したり作文に書くこと、と答えたそうです。その学生は卒業して青いっぱさの会社に入り、副そうじゅう士になったそうです。

先生は息子には「勉強しなさい」と一度も言わなかったそうです。ある日、息子が電車の中で中学校の同級生に「あ、大学に行ってるの？」と聞かれたそ

うです。息子は家に帰ってから「どうして勉強しなさいと言ってくれなかったんだよ」と言ったそうです。それから息子は英語を猛勉強したそうです。  
(佐野幹太記者 高階小6年)

#### 先生の話

二時間目の最初に先生はこう言われました。将来になりたい自分に会うためには勉強が大事です。でも勉強だけしていればいいというわけではなく、生活しているすべてのことが自分の未来をつくらせているのです。しかし、どんなに勉強しても、良い習慣を持っていないと社会の仲間に入れてもらえません。良くない習慣とは、あいさつをしない、うそをつく、時間を守らない、などです。

そのあと、こんな話をされました。コンピュータ会社を作ったアメリカのステイブ・ジョブズは「未来に先回りして点と点をつなげることはできない。君たちにできることは、過去を振り返ってつなげるだけだ」と言っています。過去を振り返って今を考え、未来をつくるのが大切です。

あなたが将来やりたいことが出来るためには何をすべきか。①やるべきことは何か、②出来ることは何か、③やりたことは何か、を考えることです。自分で考えて、やるべきことをやる、それがあなたの未来をつくるのです。今日聞いたことを、あすからやってみてください。先生はこうお話しになりました。

#### 小島先生のインタビュー

Q この授業テーマを選んだ理由はなんでですか。

A 小学生にとっては、未来がたくさんあるから、その未来をどうつくればいいのかを考えてほしいから。

Q 子どものころは、どんな子どもでしたか。

A 変わっていたわね。人と同じことをしなかった。趣味は読書でした。

Q 好きだった教科はなんでしたか。社会と国語です。自分で考えられたから。

Q 子ども大学の学生に伝えたいことは？

A 今日とは未来の過去ということ。(河野友里記者 寺尾小5年、浅野玲子記者 杉下小6年)

#### 学生の授業感想

大東東小4年・松本白華さん  
Q 今日の授業はどうでしたか。

A 初めて知ったことがたくさんありました。

Q たとえばどんなことですか。

A マサイ族の文明です。  
(浅野璃子記者 杉下小6年)

(注) 小島先生はアフリカのマサイ族の生活を紹介します。毎朝、ビタミン不足をおぎなうために牛の血を飲んでいて、スマホやインターネットを使っていることなどを話されました。

星野学園小5年・日野晴菜さん  
Q 今日の授業はどうでしたか。

A キャリアの説明がよかったです。あと、自分が知っていた情報とつながったところも分かりやすかったです。

(深見美空記者 福原小5年)

(一面からつづく)

☆記者の授業感想

◇太田優貴記者 大塚小4年

小島貴子先生の授業「未来に会いにしよう」を受けて、未来の自分に必要なことは、良い習慣と、考える習慣を、毎日つかさねることだと分かりました。

そして、時間は一日二十四時間で、もどらないから、その二十四時間を大切に(有こうに)使うことも分かりました。

これからは、時間を大切に、良い習慣、考える習慣を毎日つかさねることを守って、生活していこうと思います。

◇小島未来記者 福原小6年

未来の自分に必要なことは、考える習慣だと知りました。

その他にも学校に行くことで、勉強したり友達関係をつくるのが、未来への自分の大きな貯金になること、今後の生活に役立つということも教えてもらいました。

◇新井穂花記者 高階西小4年

わたしは、今の自分が未来の自分を作るといふところが一番いんしょうに残りました。なので、未来の自分を作るために、今がんばりたいと思いました。

◇関根英瑠麻記者 古谷小4年

小島先生の授業をうけて思ったことは、今、自分がなっているピアノや、くもん、けんどうを、未来の自分のために、いつしようけんめい、とりくんできたいということです。こんど小島先生に会ったら、大切なことをおしえてくれて、ありがとうございましたといいたいです。

特別授業「環境問題を考える」

石坂産業 くぬぎの森を見学

「環境問題について考える」をテーマにした特別授業が10月11日

(土)午後一時から人間郡三芳町上富緑の石坂産業と周辺のくぬぎの森で行われました。参加者は学生12人(四年生一人、五年生10人、六年生一人)、保護者一人、きょうだい五人でした。

石坂産業は産業廃棄物を再利用可能な資源に変えるリサイクル事業を行っている会社です。

はじめに石坂産業の会議室で、くぬぎの森環境塾事務局長の熊合豊さんからクイズ形式で環境問題の講義がありました。このあと工場見学、くぬぎの森、三富今昔村を見学しました。

ゴミの分別を見る



石坂産業見学では、ゴミの分別のしかたを教わりました。そのやり方は、まず人の手で分けられるものと分けられないものに分けて、次に大きいものと小さいものに分

けるために、ふるいにかけて細かきふるいにかけて、磁石で金属を分けます。その後、ふるいにかけて一番大きなものを人の手で分ける」とだそうです。

ゴミを分けるときは、ゴミのけむりが立たないように、水をまくそうです。かきこいなと思いました。

石坂産業では、電気で動くショベルカーが、金属とコンクリートを分けていました。CO2も出ないので、いいなと思いました。

家の柱には、木の部分とクギの部分があるので、それもきちっと分けて、買って取ってもらっているとおっしゃっていました。(深見美空記者 福原小5年)

落葉する木が減っている



日本では落葉する森林が減ってきました。

木材に利用するヒノキやスギなどの針葉樹を多く植えるため、紅葉のない山が

多くみられます。クヌギやナラは寒さに対応して、葉を紅葉させ、自身の体力を守るために落葉させます。

落ちた葉は、やがてくち果てて、良いふうとう土となります。良い土があるところには、ミミズがたくさん生息します。ミミズが多い土地は、ミミズを食すモグラが見られます。

(土田莉子記者 山田小5年)

昔のくぬぎの森体験



くぬぎの森環境塾の最後は、昔のくぬぎの森体験でした。昔のくぬぎの森には、足湯コーナー、石つすコーナー、おもしろ館コーナー、紙しばいコーナーの四つがありました。

コーナー

1の前の広場には、水車と室(むろ)などがありました。室は地下四メートルもあり、ウドを育てているそうで、とてもびっくりしました。石つすコーナーの石うすを回すと、とても重かったです。おもしろコーナーでは、昔の農機具のトウモロコシこぎ、輪切りさいだん機、はかりが、めずらしかったです。

今昔語りべ館の二で土田さんと「ネコトコ、ハコ」という紙しばいをしました。(増田夢実記者 名細小6年)

インタビュー

くぬぎの森環境塾事務局長の熊合豊さんに聞きました。(増田記者)

Q 一カ月に何人ぐらい見学に来ますか。

A 五二〇人くらいです。

Q なぜ森の中に工場をつくったのですか。

A 高速道路に近いからです。